

令和4年決算特別委員会（企業会計審査）開催状況

開催年月日 令和4年11月7日（月）
 質問者 共産党 菊池 葉子 委員
 担当部課 建設部まちづくり局都市環境課

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 公共下水道事業会計について</p> <p>(一) 2021年度の実績について 2021年度の営業収益、営業費用及び下水道の使用量の現状を前年度との比較で伺います。</p> <p>(二) 北海道下水道事業経営戦略に基づく取り組みについて 石狩新港地域の公共下水道事業については、昨年度決算審議から企業会計決算で行うことになりました。昨年の決算議会では我が会派として一般会計からの長期借入れがなければ経営できない状況は、公営企業として成り立たないことを指摘してきましたが、先ほどの答弁から下水道の使用料その辺は増えていますが、結局、借入金が昨年度と比べてさらに増えたと認識しました。 昨年の3月には、北海道下水道事業経営戦略を策定していますがこの一年どういった改善計画を実施してきたのか伺います。</p> <p>(三) 今後の経営戦略について 経営戦略も始まったばかりということもありますけれども、経営戦略を策定した以上、黒字化のめどをしっかりと示すべきであると考えます。その上で、今後どのように収支改善に向けた取り組みを進めていくのか伺います。</p> <p>安定的、継続的な下水道サービスの提供の意義はわかりませんが、経営戦略としては、一般会計からの長期借入れに頼らない公営企業としての独立採算制のめども早急に立てるべき。このことを指摘して質問を終わります。</p>	<p>○公園下水道担当課長 山下 誠一 令和3年度の実績等についてであります。令和3年度決算における営業収益は、約3億2,700万円であり、前年度と比べ、約1,000万円の増加となっております。また、営業費用は、約9億8,000万円であり、前年度と比べ、約4,600万円の増加となっており、この結果、営業損失は、約3,600万円の増となっております。これに営業外収益などを加味し、純損失は約9,300万円の増となっております。また、令和3年度の下水道の使用量は、約178万5,000立方メートルであり、前年度と比べ、約5万3,000立方メートルの増となっております。</p> <p>○公園下水道担当課長 山下 誠一 北海道下水道事業経営戦略に基づく取り組みについてであります。経営戦略においては、使用料単価の見直しや処理場敷地の有効活用による収入の確保、委託方法の見直しによる維持管理費の削減や、改築更新に併せた新技術、高効率機器の導入によるコスト削減を行うこととしております。 使用料単価の見直しについては、社会経済情勢の変化などを踏まえた検討が必要と考えており、処理場敷地の有効活用については、他県等における取組事例について情報収集を行っているところでございます。 また、委託方法の見直しにつきましては、令和3年度より、これまで別業務としていた放流水などの水質検査業務などを処理場運転業務と併せて委託したところでありまして、新技術・高効率機器の導入につきましては、汚水処理過程の一つである、酸素供給装置において使用電力量を軽減する機器の導入を進めているところでございます。</p> <p>○建設部長 北谷 啓幸 今後の取り組みについてであります。下水道事業を取り巻く経営環境は、施設の老朽化などにより厳しさを増しておりますが、下水道は、道民生活にとって必要不可欠なインフラでありますことから、今後も事業を安定的に継続していくことが必要と認識しているところでございます。 このため、道では、令和3年3月に策定しました経営戦略に基づき、使用料単価の見直しなど事業収支の改善に向けた取組や、施設・設備の計画的かつ効率的な整備により、下水道事業の経営基盤の強化を図るなどして、将来にわたり安定的かつ持続的な下水道サービスを提供してまいりたいと考えております。</p>